

KAKEGAWA

かがわ 第33号

市議会  
だより

平成23年11月1日

編集/発行 掛川市議会

静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1

☎ 0537(21)1160

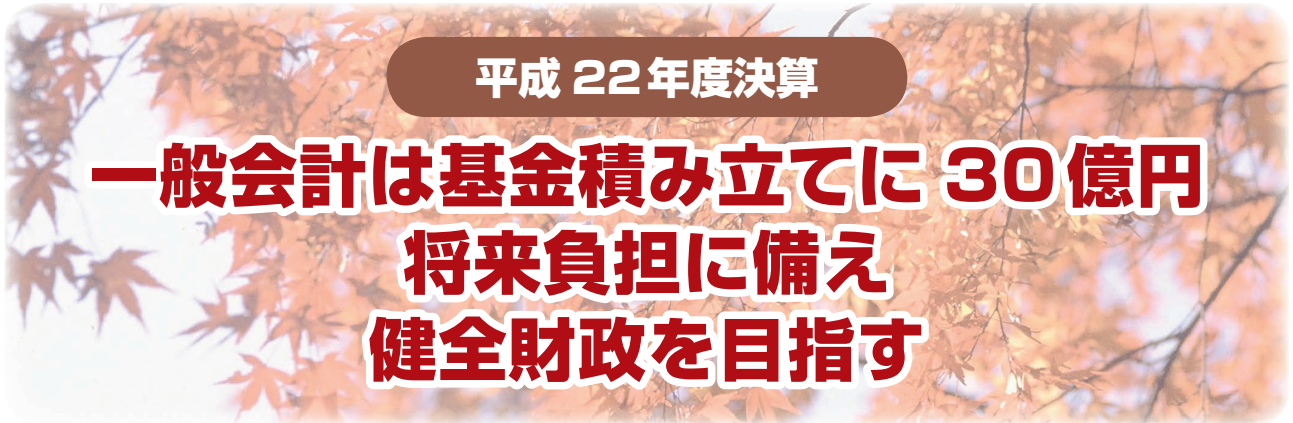
<http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp>

秋祭り(千浜地区)

## おもな内容

## CONTENTS

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ● 決算の概要         | 2ページ  |
| ● 議案の審議結果       | 5ページ  |
| ● 一般質問          | 6ページ  |
| ● 各委員会の現状と課題    | 10ページ |
| ● 特別委員会中間報告     | 11ページ |
| ● 傍聴席/11月定例会の予定 | 12ページ |



一般会計	
歳入決算額	454億2,181万円
歳出決算額	437億7,559万円
歳入歳出差引額	16億4,622万円
実質収支	14億5,533万円

特別会計	
歳入決算額	222億3,583万円
歳出決算額	213億8,353万円
歳入歳出差引額	8億5,230万円
実質収支	8億4,850万円

※ 企業会計は市議会だより 8月 1日号にて報告済

一般会計歳入構造		
区分	金額・指数	前年対比
自主財源	272億円	+6億円
依存財源	182億円	+8億円
財政力指数(単年度)	0.880	-0.112
実質公債費比率	14.3	-1.7
将来負担比率	94.1	-36.2

「実質公債費比率」は昨年の 16.0 から 1.7 ポイント改善、県内順位はワースト 3 位から 6 位となった。

「将来負担比率」も昨年の 130.3 から 36.2 ポイント大幅改善、ワースト 4 位から 8 位となった。

### 平成 22 年度決算概要

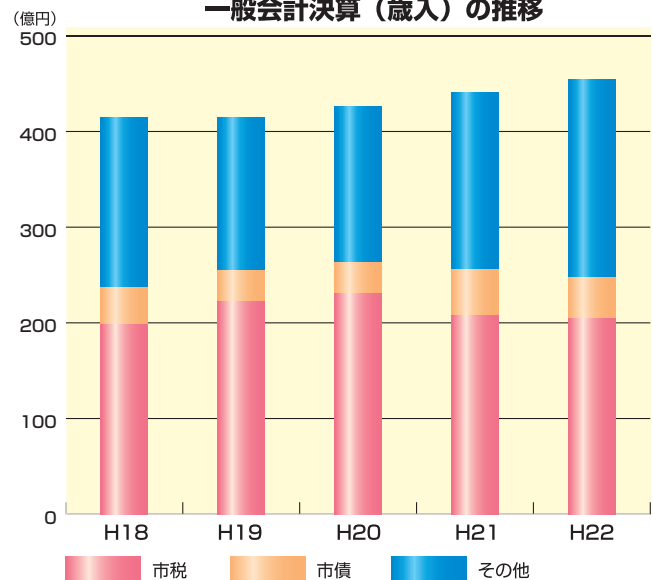
平成 22 年度決算は、一般会計をはじめ、15 の特別会計と 2 つの企業会計で、歳出総額 781 億 8,887 万円となりました。

一般会計では、今後予定される現病院の清算や(財)掛川市開発公社解散に備え、財政健全化基金や財政調整基金に前年度比 27 億 3,825 万円増の積み立てを行い、約 74 億円の年度末基金残高を確保しました。

歳入面では、個人市民税が 8 億円ほど減少する厳しい状況でしたが、法人市民税では景気の持ち直しの動きが見え始め、前年度決算に比べ約 6 億円の増額となりました。

歳出面では、南北道路の整備や同報無線の整備など新市建設計画の重点プロジェクトの推進をはじめ、「東部ふくしあ」の開設や子供医療費助成の対象拡充、全小中学校への太陽光発電施設整備など、多くの財政需要と市民要望に対応しました。

一般会計決算(歳入)の推移



# 決算特別委員会委員長報告

平成 22 年度決算議案は、一般会計と特別会計の 2 つの特別委員会を設置し、審査を行いました。

一般会計は、9 月 20 日～ 22 日の 3 日間、特別会計は、9 月 20 日に開催され、審査の結果いずれも原案のとおり認定すべきものと決めました。また、9 月 30 日の本会議において、両特別委員会の審査経過及び審査結果が委員長より報告されました。

## 一般会計決算 特別委員長報告（抜粋）

この委員会で交わされた主な質疑は次のとおりです。

**Q** 一般会計における職員数及び時間外勤務時間数と有給休暇の取得日数について。

**A** 正規職員は 720 人、非常勤職員は 257 人である。時間外勤務時間は平均 119.47 時間、有給休暇は平均 7 日と 7 時間である。

**Q** 地籍調査の掛川区域の進捗率は何か。

**A** 19%で掛川区域ではあと 150 平方キロある。今後はまず上内田地区を終了させ、さらに伊達方南工区等を完了させること、その上で市内でよく検討し実施していきたい。

**Q** 防災ラジオの配付がまだ 3 割となっており、整備が必要と思うが今後の配付目標は。

**A** 平成 21 年度から 3 年間で 1 万 5 千台を配付し、7 割としたい。

**Q** 地域環境整備調整費について。

**A** 地区要望は各区から 3 本ずついただき、558 件を処理した。また、緊急的な修繕工事は 789 件を処理した。

**Q** 太陽光発電の補助金が 2 万円から 4 万円になったが、環境日本一を掲げているので補助率を上げてよいのではないか。

**A** 5 市先進地サミットの都市を比較すると補助金は少ない状況である。検討して当初予算に反映していきたい。

## 特別会計決算 特別委員長報告（抜粋）

この委員会で交わされた主な質疑は次のとおりです。

### ●掛川市国民健康保険特別会計

**Q** 平成 22 年度の国保財政は大変厳しいという前提で、一般会計から 7 億円を繰り入れたと思うが、5 億 5,441 円の黒字決算である。22 年度の決算状況をどう総括しているのか。

**A** 昨年に約 8 億 2 千万円不足するという見込みで、賦課基準の改正をお願いしたものであり、黒字となった大きな要因は、例年になく、インフルエンザの医療費の伸びがなかったことによるものである。

### ●掛川市介護保険特別会計

**Q** 高齢者に対する介護予防施策の内容は何か。

**A** 通所型及び訪問型の複合型で実施しており、しゃっきり度チェック・びんぴん教室を各公会堂で実施している。

### ●掛川駅周辺施設管理特別会計

**Q** 駐車場利用 15 分の無料化をはじめたが、効果はどうか。

**A** 昨年の 10 月から試行を含めて実施し、無料化前の駅北駐車場では、昨年の 4 月から 9 月まで、需要が前年度の 96.3% で、無料とした 10 月から 3 月までは、102.7% となった。

### ●掛川市温泉事業特別会計

**Q** 平成 22 年度の一般会計の繰入金金が 5,804 万円であるが、この 3 年間でどれくらいの推移になっているのか。

**A** 平成 22 年度が 5,804 万円、21 年度が 5,499 万 1,000 円、20 年度は基金を取り崩したため、それを含めて 1 億 4,899 万 9,000 円である。

# 平成23年度9月 一般会計補正予算の概要と特徴

- 1. 補正規模 10億 7,923万円
- 2. 補正後の予算額 431億 9,967万円

## 9月補正の特徴

東日本大震災を教訓に  
防災・雇用対策等の予算を増額・追加

### 1. 主な防災関連予算は

- ① 小中学校校舎（8校）と城東中学校体育館補強事業 4,880万円追加  
県の耐震基準に満たない小中学校と城東中学校の体育館耐震化の計画を前倒しして実施します。
- ② 同報無線有線回線解消工事費 430万円追加  
無線化工事を行うことにより大東区域の個別受信機用回線が遮断する心配が解消されます。
- ③ 津波対策関係印刷費等 90万円増額  
大東、大須賀区域の自主防災会等に配布する避難地と海拔を示した地図などの印刷をします。

### 2. 再生可能エネルギーの普及促進

- ① 土方幼稚園太陽光発電設備設置等整備事業費 582万円追加  
幼稚園への太陽光発電設備設置とソーラー人形を製作します。

### 3. 主な雇用対策・産業振興予算は

- ① 緊急雇用対策事業 2,138万円増額  
4事業を追加し新たに11人の雇用を創出し、当初予算と6月補正を合わせると41事業、146人の雇用を創出します。

### 4. 将来の財政需要に備えて

- ① 財政調整基金積立金 5億円増額  
現病院閉院時の清算や財団法人掛川市開発公社解散時の清算などに対応するために積立します。

歳入		
①	前年度繰越金	10億 533万円
②	臨時財政対策債	2億 800万円
③	市税	1億 8,490万円
④	地方交付税	8,403万円
⑤	国県支出金	3,885万円
⑥	その他の地方債	1,250万円
⑦	その他	△ 1,101万円
⑧	繰入金	△ 4億 4,336万円

歳出		
①	財政調整基金積立金	5億 0,000万円
②	地域環境整備調整費	5,000万円
③	緊急雇用対策事業	2,138万円
④	産業立地奨励事業補助金	3億 0,000万円
⑤	市単街路事業	1,730万円
⑥	小中学校校舎耐震化事業	4,880万円
⑦	土方幼稚園太陽光設置費	582万円
⑧	その他	1億 3,594万円

◎臨時財政対策債は、元利返済の100%が交付税で措置される起債です。

## 9月定例会における議案の審議結果一覧

議案名
平成23年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計補正予算(第1号)について
平成23年度掛川市介護保険特別会計補正予算(第1号)について
平成23年度掛川市水道事業会計補正予算(第1号)について
掛川市都市計画税条例の一部改正について
東遠学園組合規約の変更について
市道入山瀬線築造工事第一工区請負契約の締結について
市道入山瀬線築造工事第二工区請負契約の締結について
市道入山瀬線築造工事第三工区請負契約の締結について
掛川市道路線の廃止について
掛川市道路線の認定について
掛川市道路線の変更について
平成22年度掛川市簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度上西郷財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度桜木財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度東山財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度佐東財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
健全化判断比率の報告について
掛川市簡易水道特別会計資金不足比率の報告について
掛川市公共下水道事業特別会計資金不足比率の報告について
掛川市農業集落排水事業特別会計資金不足比率の報告について
掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計資金不足比率の報告について

全会一致可決・認定・受理

議案名
平成23年度掛川市一般会計補正予算(第3号)について
平成23年度掛川市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)について
掛川市いこいの広場条例の一部改正について
掛川市安養寺運動公園条例の一部改正について
掛川市下垂木多目的広場条例の一部改正について
掛川市海洋センター条例の一部改正について
掛川市大東体育施設条例の一部改正について
東遠カルチャーパーク総合体育館条例の一部改正について
掛川市大須賀体育施設条例の一部改正について
平成22年度掛川市一般会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市後期高齢者医療保険特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市公共用地取得特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市駅前周辺施設管理特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市浄化槽市町村設置推進事業特別会計歳入歳出決算の認定について
平成22年度掛川市温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定について

賛成多数可決・認定

### 「新東名高速道路」(御殿場 JCT ~ 三ヶ日 JCT) は来年初夏開通される予定です

新東名高速道路の御殿場 JCT から三ヶ日 JCT までの間(延長 約 162km)は、平成 24年初夏の開通を目指して事業が進められています。これまでは平成 25年 3月 31日の開通予定でありましたが、現東名とのダブルネットワーク化による災害などの緊急時の代替性や地元の要望に対応するため鋭意事業を推進したことにより、早期の開通となります。

本市も(仮称)森掛川 IC が、新たな広域交通主要施設として整備され、経済発展が期待されます。



2012年初夏の完成を目指す区間  
新東名 御殿場 JCT ~ 三ヶ日 JCT 約 162km

【提供：中日本高速道路株式会社】



鈴木久男（創世会）

沿岸地域への津波対策は

**Q** 海岸線一帯は宮城の名取海岸と似ていると言われ心配。メカニズムを学んだ上、被害想定をして対応策を検討すべきと思う。

沿岸地域にある企業が、避難階段等設置する場合、市民皆さんも共用できる施設とするため、市として助成制度を設けたらどうか問う。

**A** 支援制度を改めて早急に考えていきたい

企業の避難計画を策定するに当たって、実質的に避難タワー、あるいは避難の指定ビルの外階段をつくるというようなことに對して、行政として積極的に支援をしたい。

南部地区への体育館整備促進を

**Q** 今後三カ年程度で、広域避難所機能を持つ施設として、南部体育館建設計画が明言された。位置選定の考え方を伺う。

今後三カ年程度で、広域避難所機能を持つ施設として、南部体育館建設計画が明言された。位置選定の考え方を伺う。



閉館された大東体育館

**A** 早急に建設場所を決定していきたい

統合と広域避難所機能を持つ施設として考えたいと思うので、敷地面積や位置などを考えた場合、現大東体育館は、それらの条件が満たされていない。いろんな条件をしっかりとクリアできる場所を選んでいきたいと思っている。

【他の質問事項】指定管理者のプロポーザルに向け、「天竜船下り」事故から検証したことは何か

鈴木正治（誠和会）

スマートシティ的構想の考えは

**Q** 掛川市は全小中学校に太陽光発電を設置し、海岸部には民間による風力発電もある。

スマートシティ的都市構想を取り入れやすい状況にあるが考えは。

**A** 前向きに検討していく

最新技術と新エネルギー機器、全体システム等の提案について、市がこれまで連携をとっていた東京工業大学の先生方などと協働して、スマートシティ構想を検討していく。

東日本大震災へ職員派遣など被災地から学んだものは

**Q** 会派で被災地を視察したが、また瓦れき処理被災家屋の処理など、復旧復興にはほど遠い状況であった。この大震災から市長は何を学び、掛川にどう生かすか。また、職員の派遣により得られた情報を防災にどう生かすか。

この大震災から市長は何を学び、掛川にどう生かすか。また、職員の派遣により得られた情報を防災にどう生かすか。



津波でも残った希望の松（陸前高田市）

**A** 自らの命は自らが守るという意識を強く持つことが第一

自助の意識が重要であり、特に津波対策として各地域、各世帯での避難計画の策定と周知を優先していく。また、支援活動や報告会を通じて得たものを断片的な活用にとどまるというのではなく、現在見直し中である防災計画に盛り込んでいく貴重な資料として、活用をしていきたいと考えている。

【他の質問事項】避難地等の太陽光発電の設置状況について

※「スマートシティ」とは、太陽光や風力での発電など再生可能エネルギーを効率よく使い、環境負荷を抑える次世代環境都市

# 一般質問

## Q&A

**栗原通泰 (三和会)**  
**放射能汚染から身を守るため  
 学校給食の「安全検査」は**

**Q** 福島第一原子力発電所で発生した水素爆発で静岡県内にも放射性セシウムによる汚染が発生し、食品に対する「安全性」が注目された。将来を担う子供達の健康を保障するのは私たちであり、そのためには食材の検査が必要と思うが、考えを伺う。

**A** 市が単独で給食材料の安全検査を行うことは考えていない

厚生労働省が示した地方自治体における検査計画に基づき実施するよう指導している。これを受けて県では、県内の農畜水産物三十六品目の放射性物質の検査を順次実施している。今後、



楽しい給食風景 食材の安全を求める

**榛葉正樹 (みどりの会)**  
**ソーシャルメディア等を活用した、  
 まちづくりは**

**Q** 「情報革命」により、ビジネススタイル、ライフスタイルも大きく変化してきた。ホームページ、また、地域SNS等のソーシャルメディアを活用したまちづくりのビジョンは。

**A** さらになる活用の推進を図っていく

単に情報交換を主とするサービスにとどまらず、その時々に応じたツール、サービスで柔軟な対応をしていく必要がある。運用に向けて、研究・検討を進めている。また、さまざまなニーズに対応するための情報収集と発信の方法



施設整備が必要とされる学童保育施設 (城北小たつのこクラブ)

についても研究を進めている。  
**現在の社会状況に  
 合わせた学童保育施設  
 の充実を**

**Q** 少子化や核家族が進行し家庭環境が大きく変化した。「子育て支援」「仕事と子育ての両立」の観点から、掛川市の学童保育のあり方、また、施設整備をどのように考えているのか、伺う。

**A** 増加するニーズに対し、事業の質・量の向上を図っていく

学童保育所は、「地域の子供は地域で育てる」という地域福祉の視点に基づいて、地域で運営されるのが望ましい。また、小学校の規模に応じたバランスのとれた施設改修や整備を計画している。

**【他の質問事項】スポーツ施設  
 整備について**

※「ソーシャルメディア」とは、インターネットを利用して個人間のコミュニケーションを促進するサービスの総称

**【他の質問事項】再生エネルギー  
 特別措置法」と今後の電力エネ  
 ルギーの「地産地消」について**

**Q** 昨年末公共交通あり方検討委員会から答申された改善事項と今後の取り組みと進め方について、考えを伺う。

**A** 路線バスにかわる公共交通の取り組みを推進していく

地域交通協議会の設置については、和岡地区、曾我地区において協議会を立ち上げ協議を進めている。運行基準については、収支率が十五％に満たない地域について地域交通協議会を立ち上げ、検討していく。デマンド型乗り合いタクシーの社会実験については、平成二十四年一月から三月の間に行う計画である。



柴田正美（共産党掛川市議員）

**都市計画税は  
開発・保全をわきまえた課税を**

**Q** 「受益は都市計画区域  
全域」の当局見解は誤  
り。都市計画区域内には保全  
する地域があり、「市街化調  
整区域」相当の地域が存在す  
る。こうした所に課税しては  
ならないのでは。

**A** 適法であり妥当なもの

市において都市計画事業の  
受益が全く得られていない場  
所はない。市の発展のために  
広く市民に負担いただく考え  
は、歴代の議会が認めており、  
適切に課税されてきたもので  
あり、何ら問題はない。

**浜岡原発は永久停止・  
廃炉に**

**Q** 京都大学の故瀬尾健  
助教のシミュレーショ  
ンによると、M9.0の地震、  
津波で原発は水蒸気爆発など  
破局的事故が起これば、掛川  
市民七万八千人が急性死す  
る。避難所の木造建物では紙  
で止まるアルファ線以外、放

射線はすべて貫通する。市民  
に責任ある防災対策は。ヨウ  
素剤配備を島田・袋井市並み  
に増やすべきでは。

**A** 理解が得られた後、  
判断することである

当面は関係四市、国・県と  
の意見交換、情報交換などを  
通じ、防災体制の強化を図っ  
ていく。ヨウ素剤は本来は県  
が追加配備すべきと考える  
が、市として独自配備を検討  
していく。

【他の質問事項】子供医療費無  
料化の拡大を

※故瀬尾健氏著書「原発事故…その時あなたは！」  
（風媒社）掲載による被害想定

**都市計画法 第5条  
都市計画区域の定義**

一体の都市として総合的に整備し、  
開発し、及び保全する必要がある  
区域を都市計画区域として指定す  
るものとする。

※都市計画区域は開発する区域と開発  
を抑制する区域を想定しており、線引  
自治体では市街化区域と市街化調整  
区域に区分します。

草賀章吉（創世会）

**サイクルツーリズムによる観光振興を**

**Q** サイクルツーリズム  
は自然や環境との共  
生、健康志向、地域にある  
ふつうの風景が貴重な観光  
資源となり、二十一世紀の  
生き方、暮らし方に合う。  
掛川市の交流型産業の一つ  
として推進すべきでは。

**A** 新たな交流人口の  
拡大を目指す

中東遠地域は、通年で自転  
車を楽しめる気候であり、風  
光明媚な景観、適度な起伏に  
富んだ多彩な道があり、自転  
車適地である掛川市としては、  
魅力あるサイクルツーリズム  
先駆けの都市として、掛川観  
光協会事業や市民協働参画事  
業に積極的に支援をしていく。

**市職員の応対に対する  
市民満足度の向上対策を**

**Q** 行政サービスに市民  
の期待は大きい。しか  
し職員応対が不親切、マニユ  
アル通りの受け答え、冷た  
い、心を感じないなど苦情  
を耳にする。苦情を生かす

仕組みづくりをすべきでは。

**A** 研修や各セクションでの  
討議を推し進めている

市庁舎には「目安箱」を設  
置しており、御意見をいただ  
いている。それをすべて確認、  
評価をするともに、関係部  
署に指示を行っている。その  
他、職員に対する御意見等に  
ついては、人事担当を中心に、  
対応や調整とともに評価、検  
証を行っている。

【他の質問事項】第二次掛川市  
総合計画の中間総括について、  
市民活動日本一への具体策実施  
について、中学校の教科書選定  
について



通称田園滑走路（原谷地内）



# 一般質問

## Q&A

川瀬守弘（共産党掛川市議員）

世界一危険な浜岡原発は永久停止、廃炉に

**Q** 浜岡原発は東海大地震の想定震源域の真上に建っている。地盤隆起、地殻変動が直下で起これば、たとえ原発が頑丈に作られていても、地面そのものが破壊され、無数の配管や装置のかたまりである原発プラントの破壊は免れないと考えるが見解を伺う。

**A** しっかりと理解が得られたのち判断することである

今後三十年以内にM八程度の東海地震が発生する可能性が八十七%であることや、浜岡原子力発電所において震度六強の地震が発生する可能性



城北小付近の通学路

が極めて高いことは認識しており、M九の地震・津波に耐える安全性が必要である。

学校施設、公共施設の耐震化、避難路整備が急がれる

**Q** 東海地震対策で広域避難所となる学校施設、公共施設の耐震化、避難路整備、通学路安全対策が急務と考えるが見解を伺う。

**A** 非常に重要であり常に見直しを図っていく

広域避難所は、市内四十二ヶ所に設置されており、国の耐震基準を上乘せした県の基準を満たすよう計画的に耐震補強を実施していく。広域避難所に通じる避難路及び通学路の整備は、災害時の安全性の確保等非常に重要であるので、自主防災会等の意見を踏まえて、見直しを図っていく。

【他の質問事項】新病院・地域医療のこと

## 火葬場建築工事が始まりました

昭和53年6月から業務を続けてきました、東遠地区聖苑組合（掛川市・菊川市で構成）火葬場が33年経過し、老朽化により全面建てかえされることとなりました。8月24日に行われました組合議会において、建築工事に関わる請負契約が議決され、工事が始まりましたので、工事概要についてお知らせします。

### 【工事概要】

- |           |   |
|-----------|---|
| (1) 工事場所  | 菊川市西方地内（現火葬場隣接地）  |
| (2) 概算事業費 | 25億5,600万円（平成23年3月末現在）  |
| (3) 工事内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 火葬場・待合室（鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造り）2階建）</li> <li>● 建築面積 3,507.7㎡（延べ床面積 3,587.9㎡）</li> <li>● 車庫・ポンプ室・外溝・植栽工事</li> <li>● 火葬炉設備工事（一般炉6炉・動物炉1炉）</li> <li>● 機械設備工事一式</li> <li>● 電気設備工事一式</li> </ul> |
| (4) 完成予定  | 平成25年2月末  |
| (5) 業務開始  | 平成25年4月   |

# 各常任委員会の現状と課題

## 総務委員会

委員長 水野 薫

### 健全な行財政運営と安全、安心対策の確立を

総務所管事項の重要課題は財政と安全・安心問題であります。三月十一日の未曾有の東日本大震災による、地震、津波、それに伴う原発事故、また台風等による自然災害の多発は今後の私たちに大きな試練を与えています。

掛川市財政も健全化判断比率は多少改善されたものの、財政力指数は、単年度〇・八八〇、三年間の平均値〇・九七七といずれも前年度より低下し、税収も落ち込んでいます。一方財政需要は増大し、厳しい財政運営を余儀なくされ、健全な行財政運営に努力が必要で、いずれにしても今後の重要課題は災害等に対する防災力の強化、原発の安全性を含めたエネルギー問題などが山積しております。当委員会は諸課題に、冷静かつ前向きに対処し、風評等に惑わされることなく、科学的検証に努め、一日も早くこの状況を打破すべく議論を深めているところです。



大東支所にて防災力の強化を検討する

## 環境産業委員会

委員長 山崎 恵司

### 自然エネルギー導入と明るい未来

三月十一日の東日本大震災の津波による福島第一原子力発電所の事故に伴い、中部電力浜岡原子力発電所が地震対策の向上を図るため稼働停止を余儀なくされたことにより、当市の電力需給に大きな影響を及ぼしています。

このため、掛川市は全庁をあげて省エネ・節電に取り組んでおり、市民・企業においても、それぞれの事情にあわせた対策をとるとともに省エネに取り組んでいただいています。現在は、省エネに加えて、エネルギーをみずから創り出す、創エネルギーの時代であり、住宅用太陽光発電の全戸設置の進捗率の上昇に比例して明るい未来となることを望むものであります。

なお、財政状況は依然として厳しいが、合併後の最重要施策の一つである南北幹線道路整備は、限られた予算を有効に活用するよう選択と集中により進められています。また、国道一号二瀬川交差点では、待望された右折レーンが暫定ではあるが整備されることとなり、さらに東遠地区聖苑組合の火葬場建設工事も開始がされたところであります。

環境産業委員会に課せられた課題・問題は多くかつ多岐に渡るが、引き続き検討を重ねていきます。



二瀬川交差点

## 文教厚生委員会

委員長 大庭 博雄

### 福祉・健康は「住みよいまち」の原点

東日本大震災は、「豊かさ・利便性」から「安全・安心」へと国民の価値観を変えました。市民の生活を守るため、市ではどのように取り組んでいるかを考えてみました。

東海地震から市民を守るために、耐震強度が十分でない大東・大須賀体育館の貸し出しを十月から中止し、小・中学校の校舎・体育館（十一校）の補強工事を優先して実施することになりました。

また、健康・医療の「安全・安心」を守るため、開所一年になる「東部ふくしあ」に加え、「南部大須賀ふくしあ」が十月三日、「南部大東ふくしあ」は来年一月〜二月に開所します。そして、市立総合病院跡には「(仮称)希望の丘構想」が検討されています。

ここでは、特別支援学校（県立）後方支援病院（民間）等の設置が計画されています。

市民の生活に密着し「安全・安心」を守ることは、当委員会の重要な課題の一つであると考えます。



地域の健康・医療を支援している  
(東部ふくしあ)

# 特別委員会中間報告

特定の案件を審査するために今年度設置された防災対策特別委員会及び議会基本条例制定特別委員会は、それぞれのテーマに基づき、半年間検討を行ってきました。これまでの検討内容について、中間報告を掲載いたします。

## 防災対策特別委員会

東日本大震災を教訓に、今後発生が予想されている東海地震の対策に主眼をおいて、市民の生命・財産を守るために、何が必要か、何ができるか、防災の各種対策や取り組みについて検証及び調査研究を行っています。

委員会では、防災担当課から、市の防災計画の現状とこれまでの経緯、津波対策、木造住宅の耐震補強と家具の転倒防止の取り組み等について説明を受け、会議を開催してまいりました。

静岡県の第3次被害想定では安政大地震をもとに策定され、当時の津波の記録から考えると、当市の海岸には10メートルほどの砂丘があり、津波による人的被害はないと考えられていました。しかし、見直しが予定されている第4次被害想定



ゆりあげちくひよりやま  
關上地区日和山にて

定結果が公表されれば、これに基づき検討する必要があると考えています。

また、7月6日、7日の両日、防災対策特別委員会委員で、宮城県名取市を初め、石巻市の被災地の状況を視察しました。

津波による沿岸被災地の状況も悲惨でありましたが、リーダーの活躍や避難訓練によって、命が助かったという貴重なお話を伺い、今後、自主防災のあり方や役割は、ますます重要で、行政と自主防災会との連携訓練、救護所訓練も必要となり、かつ大事なことであると思われま

す。今後、ライフライン・液状化・土砂災害の防止対策等についても研究・検討していく予定であります。

## 議会基本条例制定特別委員会

掛川市議会では、平成19年度の「議会活性化特別委員会」に引き続き、昨年度「議会改革検討特別委員会」を設置し、議会改革に取り組んでまいりました。そして、昨年度の委員会では、議会基本条例の制定や一問一答制の導入、議長交際費と政務調査費の公開などの提言が行われ、今年度、当委員会が設置されました。

議会基本条例は、自治に基づく地方議会の基本原則を定める条例で、議会の最高規範となるものであり、当議会では「市民に親しまれる議会」を目指し、地方分権に対応できる議会へ改革していくため策定することになりました。市民により開かれた市議会とするために、議会及び議員の活動原則、市民



条例の素案を検討

と議会の関係、議会と行政の関係などを明らかにしていくものであります。

当委員会では、これまで作業部会を設置し、条例の素案の検討を行うほか5回の会議を開催し、制定までのスケジュールや

条例の構成案(骨子)について協議してまいりました。また、議員全員に関わることであるため、委員会以外の議員にも共通の認識を持っていただくよう、議員同士の報告会も行うほか、昨年引き続き、基本条例についての講演会を開催し、全議員対象に勉強会を行います。

今後、市民の声を反映するため、ホームページ上でパブリックコメントを求めたり、市民や行政との意見交換を行い、早期の制定を目指してまいります。

議 会 日 誌

7月

- 19日 ● 防災対策特別委員会  
● 議会基本条例制定特別委員会
- 21日 ● 市議会全員協議会  
● 議会運営委員会
- 25日～27日  
● 文教厚生委員会行政視察  
(横手市、秋田市、花巻市)
- 26日～28日  
● 環境産業委員会行政視察  
(十和田市、仙北市、  
釜石市ほか2市被災地)

8月

- 1日 ● 東遠学園組合議会
- 2日 ● 東遠工業用水道企業団議会

- 4日～5日  
● 議員東京研修
- 8日 ● 環境産業委員会協議会  
● 文教厚生委員会協議会
- 9日 ● 静岡県市町議会議員研修会
- 10日～11日  
● 議会だより編集特別委員会  
行政視察(戸田市、武蔵野市)
- 15日 ● 新病院建設・  
地域医療対策特別委員会
- 17日 ● 議会基本条例制定特別委員会
- 18日 ● 小笠老人ホーム施設組合議会
- 19日 ● 市議会全員協議会  
● 防災対策特別委員会
- 22日 ● 掛川市・菊川市衛生施設組合議会
- 23日 ● 東遠広域施設組合議会
- 24日 ● 東遠地区聖苑組合議会  
● 掛川市・袋井市新病院建設事務  
組合議会

- 29日 ● 議会運営委員会  
● 議員懇談会

9月

- 5日～30日  
● 掛川市議会第4回(9月)  
定例会
- 8日 ● 議会だより編集特別委員会
- 22日 ● 市議会全員協議会
- 27日 ● 議会だより編集特別委員会
- 28日 ● 防災対策特別委員会
- 29日 ● 議会基本条例制定特別委員会

10月

- 4日～6日  
● 総務委員会行政視察  
(奥州市、日本原燃再処理施設、  
青森市)
- 11日 ● 議会だより編集特別委員会

11月定例会の予定

【11月】

- 30日 本会議  
(議案の提案説明)

【12月】

- 8日 本会議(一般質問)
- 9日 本会議(一般質問)
- 12日 本会議  
(議案質疑、委員会付託)  
常任委員会
- 15日 常任委員会協議会
- 22日 本会議  
(委員長報告、質疑、  
討論、採決)

傍  
聴  
席

九月の市議会定例会を傍聴させていただきました。三月の東日本大震災に関連した掛川市としての対応・対策の質疑が多かったと思います。

傍らに福島原発より規模の大きな浜岡原発を抱える掛川の一市民としては、最大の関心事であり、緊張して聞き入りました。あまりにも大きな問題ですが、この機を捉えて是非議論を重ね、一つずつ解決していただきたいと思います。議場での一般質問には、質問者、答弁者共に、平常時とは異なっ

た雰囲気加わり臨場感がありました。勉強不足の私には、聞き慣れない言葉も多く、難しい内容でした。質問者は担当の情報収集をしたり勉強をし、努力してこそできるんだなと思いました。

今社会は、内外共に厳しい時代です。雇用を初めとして、より安定した生活環境の実現に向けて、活発な討議が行われることを期待いたします。今後私もたちが選んだ議員の方々にはさらなる活躍を願っております。

藤田 美知子  
(下土方地区)

編  
集  
後  
記

市議会だよりは、市民の皆さまと情報共有するための大切なツールの一つとして、委員八人でわかりやすさを追求し日々、取り組んでおります。当委員会の特色としては、編集に関わることをすべてを委員で行うところでもあります。

編集に当たり、常に心がけていることは、「魅せる」ことです。議会報告というものは専門用語が多く、わかりづらい点が多々ありますので、用語説明はもちろんのこと、写真の使い方から、文字数やフォントの調整、レイアウト、時には気になる最新の話題の取材等々、委員全員で工夫を凝らしながら編集しております。今後も一人でも多くの市民の皆さまが手にとっていただけるような市議会だよりをお届けいたしますので、ご意見、ご感想をお待ちしております。

議会だより編集特別委員会

副委員長 榎葉正樹

